

歴史と歩んできた新宿御苑の木たち

風景式庭園の大ケヤキ

どうしてこんなに木が大きくなったの？

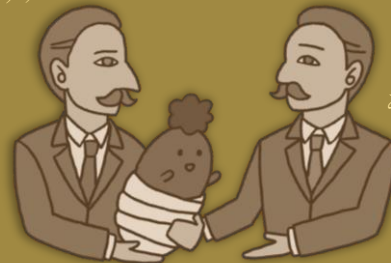
1910年(明治43年)発行の試験場の営業案内



1987年(明治12年)に横浜在住のイギリス人ブルーグが、インドのカルタッタよりヒマラヤスギのタネを日本に取りよせて、赤ちゃんの木を育てていたんだ。そのうちの100本を新宿御苑が買って育てたよ。その後は、タネから育てたり、枝を切って土にさす「さし木」という方法で270本がうまく根をはって育ったという記録があるよ。

それは、新宿御苑が、おかしから木や植物を大切に育てる場所だったからじゃ。今から100年以上前の明治のころは、野菜や花などの育て方を調べるための「試験場」だったんじゃよ。そのころに植えられた木が、今も元気に育って、ぐんぐん大きくなっているのじゃ。ちなみにわしはそれらの木よりもはるか昔、今より400年前から新宿御苑の地に根をはっているのじゃ。背はあまり大きくないがのお…

ハイ、ドウゾ



ありがとう



一番大きなモミジバスズカケノキは130くらい。
園内南東にあるプラタナス並木も同じくらいの樹齢だよ。

大正・昭和初期ごろのプラタナス並木



▲宮内庁デジタルアーカイブより

現在のプラタナス並木



プラタナス並木はきれいな景観をたもつために毎年、枝を切って大きくなりすぎないようにしているんだ。

新宿御苑のシンボルツリーでもあるユリノキは今から130年くらい前に植えられたよ。都内のユリノキの街路樹は新宿御苑の木から広まったと言われているんだ。

大正・昭和初期ごろのユリノキ



▲宮内庁デジタルアーカイブより

現在のユリノキ



左の写真の左端に写っている木が、今も園内の中央にあるユリノキだと思われるよ。花がユリに似ていることから、大正天皇が「ユリノキ」と名付けたという逸話があるよ。